

第44回医療安全管理者ネットワーク会議 in 学術集会

～生体情報モニターアラームの事故を考える 多職種で考える体制づくり～

■日時：11月30日（土）12：15～13：05

■会場：第4会場 3F G314 + G315 定員：160名（教育セミナー13）

■対象：医療安全管理者、医療安全管理を担う方、医療安全に関わる方、等

■主催：医療の質・安全学会 医療安全管理者ネットワーク委員会

■協力：ニプロ株式会社

■開催趣旨

生体情報モニターは、患者の状態をリアルタイムで把握するための重要な医療機器です。

そして、アラームは患者のバイタルサインの異常を即座に検知し、医療スタッフに知らせるという重要な機能です。しかし、生体情報アラーム以外のアラーム（テクニカルアラーム）がアラーム数を増やし、スタッフのアラーム疲労を引き起こしています。その結果、本来見つけるべき真の生体アラームが見落とされ、インシデントやアクシデントにつながってしまいます。危険な不整脈の早期認識と対応の実現には、医師、看護師、臨床工学技士など多職種がその専門性を活かして生体情報モニターアラームの管理について取り組むことが重要です。

第43回医療安全管理者ネットワーク会議（2024年8月25日）において病棟におけるアラーム対応を多方面から議論しました。今回は、そのまとめを報告するとともに、山上先生に大阪市立総合医療センターにおける取り組みについてご講演いただきます。

■座長

寺井美峰子（医療の質・安全学会 医療安全管理者ネットワーク委員会 委員）

■講師

1) 生体情報モニターアラームの事故を考える（第43回医療安全管理者ネットワーク会議）

遠田 光子（医療の質・安全学会 医療安全管理者ネットワーク委員会 担当理事）

2) 大阪市立総合医療センターにおける生体情報モニターに関する取り組みの実際

山上 啓子（大阪市立総合医療センター 医療安全管理部／総合診療内科）

■医療安全管理者ネットワーク委員

安宅 一晃（奈良県総合医療センター）

荒井 有美（北里大学病院）

遠田 光子（日本医療機能評価機構）

甲斐由紀子（宮崎大学附属病院）

亀森 康子（自治医科大学附属さいたま医療センター）

菊地 克彦（東京北医療センター）

塩津 昭子（公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院）

鈴木 真（社会医療法人友愛会 豊見城中央病院附属健康管理センター）

寺井美峰子（公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院）

松村 泰志（国立病院機構 大阪医療センター）

山内 桂子（東京海上日動メディカルサービス株式会社）